

東日本大震災の検死・検案チームに参加して

新潟大学大学院医歯学総合研究科法医学分野

山内春夫、高塚尚和
舟山一寿

東日本大震災が発生した3月11日の夕方、警察庁捜査第一課から、日本法医学会への連絡が入り、正式な支援要請が翌朝あった。日本法医学会として、理事長を本部長に、「災害時死体検案対策本部」を設置した。岩手県警察本部長からの派遣要請により、3月12日深夜に、医師3名、歯科医師3名が、東京から警察車両で岩手県に向け出発し、3月13日午後から、大船渡警察署管内等で岩手第1期の支援活動を開始し、さらに、医師7名、歯科医師4名が3月15日から増員された。宮城県の第1期は、3月14日から医師10名、歯科医師6名で、福島県の第1期も、3月16日から医師10名が支援活動を開始した。

地震直後は公共交通機関がすべて途絶しており、警察車両等を利用しての現地入りとなった。また、検案現場である沿岸部へのアプローチも困難を極めており、率直にいったら一旦入るとしばらく帰って来られない状況であり、最初は、無期限派遣の覚悟であった。新潟県医師会からも、いち早く死体検案の支援のお話があったが、現地の受け入れ態勢や、往復の移動や短期での交替が困難であったことから、ひとまず、法医学会としての支援を見守っていただくことにした。現地は、ライフラインが壊滅状態で、電気や水道、パソコンやコピー機、携帯電話などが殆ど使用できなかった。寒さも厳しく、雪の舞う中での大変な検死が続いた。

第2期からは、実働6日間での派遣となり、各地区の理事がまとめ役となって、メーリングリストなどで、法医学会員への派遣募集を行い、参加可能な期間をすべて登録してもらい、対策本部で派遣メンバーを決定した。

新潟大学からは、舟山一寿助教が岩手1期、岩手6期、岩手10期の3回、高塚尚和准教授が、宮城3期と福島11期の2回、山内春夫教授が、福島

4期と福島8期の2回の計7回の参加となった。宮城県では、仙台市などでの宿泊が困難で、山形市のホテルに宿泊して、朝7時前に出発して、夜遅くに戻るといった強行軍の毎日であった。さらに、岩手県と宮城県では、死体検案場所が多数分散しており、道路も寸断状態で、毎日が長い移動時間となった。福島県は、相馬市と南相馬市での死体検案であり、南相馬市内のホテルに宿泊し、移動時間は短かったが、ここでは、原子力発電所の事故の影響が大きく、ご遺体の一体ずつについて放射線量を測定してからの死体検案であった。福島県では、地震直後に最新式の携帯デジタル歯科レントゲン装置が導入され、身元確認に役立っていた。ここでは、陸海空の自衛隊所属の幹部クラスの歯科医が、4名ずつ1週間単位で派遣されており、引継もスムーズで、死体検案時の歯科所見の観察・記録と該当者との照合に大活躍されていた。我々も一緒に死体検案を行う中で、貴重な交流の機会を得ることができた。

東日本大震災で亡くなられた方々の多くは、巨大な津波による犠牲者であり、殆どが溺死と考えられたが、死体検案のみで死因を確定することは困難であった。我々が気をつけたのは、地震以外で死亡した、特に犯罪の被害者の死体が紛れ込んでいないかという点であった。死体検案の目的の第一は、身元の確認であった。全身が泥だらけの津波の被害者も多く、水が使えないために、ご遺体を洗ってあげられないという辛さもあった。当初は、顔ぼうなどで該当者が浮かび上がることが多かったが、次第に、歯科所見やDNA型検査に頼らざるを得ない例が増えて行った。全国の都道府県警からも、死体検案の応援部隊が来ており、福島県では、新潟県警の顔なじみと一緒に仕事をすることもあった。

阪神淡路大震災の貴重な経験から、日本法医学

会は、「大規模災害・事故時の支援体制に関する提言」を1997年に出している。これまでは、災害発生時に個人の判断で現地入りすることが多かったが、今回は、日本法医学会として対策本部を設置して、全国の会員を中心にまとまった行動をとることができた。大規模災害時の死体検案では、警察の方針を尊重しながら、現地での死体検案の体制をバックアップすることが大事であることを再認識した。

6月15日から17日、福島県立医大の平岩幸一会長のもとで福島市において、第95次日本法医学会を予定通り開催することができた。福島県では、

その直前の14期（6月7日まで）で支援を一区切りとし、宮城県19期（7月4日まで）と岩手県19期（7月6日まで）で支援派遣を終えることとし、震災後4か月たった7月11日に対策本部を閉鎖した。

東日本大震災の発生した翌日に第一陣が岩手県に向い、3月13日から死体検案の支援ができたこと、1日に千人以上のご遺体が収容された日もあった宮城県での支援、原発事故の影響の大きかった福島県での支援と、それぞれの大変さがあったものの、地元の人達の頑張りに少しでも役立てたことを誇りに思います。多くの犠牲者の皆様のご冥福をお祈り申し上げます。



写真1. 死体検案メンバー



写真2. 福島県医大平岩教授と一緒に 南相馬市にて



写真3. 新潟県警派遣隊と一緒に 相馬市にて



写真4. 放射線量の測定